

東北大学大学院歯学研究科 インターフェイス口腔健康科学 第57回学術フォーラム

Forum for Interface Oral Health Science

“Save the tooth or place an implant in
periodontally compromised dentition”
-Evidence based strategies-

弘岡 秀明 先生

東北大学大学院歯学研究科咬合機能再建学分野
臨床教授
スウェーデン・デンタルセンター

平成24年4月20日(金) 17:00～19:00
歯学部C棟1階 大会議室

抄録

歯周病治療の主たる目的は、疾患の原因である歯周ポケット内のバイオフィルムを除去し、縁上バイオフィルムのコントロールにより再感染を防ぐことにある。90年代に入ると歯周治療の目的が、この感染の除去に加え、失われた歯周組織の再生や失われた天然歯の代用としてインプラントの応用へとパラダムシフトが起った。

重度の歯周疾患では、残存する支持組織ならびに歯列を維持するためにいわゆる歯周補綴が行われる。歯周炎は時に多数の天然歯の抜歯が避けられない状態にまで進行してしまうことがあり、このようなケースでは天然歯の代わりにインプラントが歯周補綴の支台として利用可能と考えられる(歯周インプラント補綴: Perio-Implant-Prosthesis)。しかし、重度歯周病患者では、歯槽骨の喪失によりインプラントの埋入自体困難な場合が多く、さらに、口腔内細菌叢の問題(インプラント周囲病変のリスク)が存在する。

歯周病患者のマネージメントにおける基本的な考え方として、厳密な感染除去と歯周組織再生法等の応用で著しく歯周支持組織が喪失した天然歯でも保存するのか？あるいは積極的に抜歯してインプラントを応用するのか？重度歯周病患者の長期症例を呈示しながら文献的考察を加え私見を述べたい。

連絡先: 第57回モデレーター 小山重人、菅野太郎(インプラント外来)